

令和3年度 函館あおい認定こども園 自己評価・学校関係者評価表（10段階評価）

評価分類	評定	内 容
保育の計画性	8.7	園の教育理念や教育・保育方針を理解している。
	8.5	園の目指す幼児の姿を具体的にイメージできる。
	7.4	幼児の生活が豊かになるような行事を、幼児の実態に合わせて精選している。
	7.7	指導・保育計画に基づいて、幼児が主体的にかかわりたくなるような環境構成をしている。
	8.9	保育教師の願いや意図をもって環境構成をしている。
	7.8	自分の保育と計画の評価・反省は、行うようにしている。
	7.3	幼児が自ら活動を生み出していけるような素材との出会いを考えている。
保育のあり方・幼児への対応	7.9	園内に危険な個所がないかどうか、危険な遊び方はないかななどを常に観察している。
	7.8	幼児同士のかかわりの中で、その姿の内にある心の動きについても、推察するようにしている。
	7.8	個々の幼児の発達の様子や課題について見通しをもって理解できる。
	8.5	一人一人と集団の関係を、常に考えながらかかわっている。
	8.8	クラスに関係なく、その場にいた教師が適切な言葉かけや対応をしている。
	8.0	クラス的环境構成などについても、お互いに意見を交換している。
	8.3	幼児のことについて、常に保育教諭同士で話し合い、クラス・学年をこえて情報を共有している。
資質・能力・良識・適性	7.9	締切りのある仕事や提出物は締切日をきちんと守っている。
	8.1	クラス内はもちろん、園内外の清掃や整理整頓を実行している。
	9.3	教職員全員でひとつのチームであることを意識している。
	7.2	会議の時は、自分の意見や質問を前もって考えている。
	7.6	保護者に対し、幼児のことや自分の保育のことをわかりやすく話すことができ、保護者との信頼関係を作ることに努めている。
	8.5	自らの健康にも配慮し、つめが伸びていないかどうか等、保育をする上での安全性にも気をつけている。

評価分類	評定	内 容
保護者への対応	8.3	個々の子どもの様子は直接話を行い、電話・連絡帳などを使って伝え合っている。
	7.7	保護者の要望等を受け止めて実行する場合は、そのことの保育要素・教育的な意義付けを、はっきりとさせてからにしている。
	8.2	自分の考えをきちんと話し、保護者の話に関心をもちよく聞く。
研修と研究	7.5	研究保育を参観する時は、自分なりの課題と視点をもって観ている。
	7.4	自分なりの幼児観・保育観の確立のための研修・研究を行っている。
	7.6	園内の環境を、いくつかのまとまりや、関連性を持たせて保育の計画・実践に生かすことができる。

## ～学級経営反省点～

### 【幼稚部】

- クラスの中で個々での援助が必要な事が多く、最後まで遊びに取り組みの子と、楽しむ事が難しい子の差が大きかったように感じている。視覚カードや一日の流れを示すことで、クラス全員が安心して過ごす事はできていた。一人ひとりの支援として、これらが有効な子・そうではない子がいるため、伝える事や理解させるツールとして上手くいく時との差があった。毎日の継続が大切であり、家庭でも同じように行わなければ時間がかかる事だとも思った。(17年目：保育教諭)
- 年少児クラスが3クラスに増えたため、もっと教師や子どもたちとの横のつながりを大切に持つことができたらよかったと感じている。(6年目：保育教諭)
- 進級時は言葉で伝える力が未熟だった分、手が出てしまう事・たたき合うなどの揉め事が多く、仲介に入る事がたくさんあった。その都度、時間をかけて話を聞き、気持ちを代弁する事で、少しずつ人へ伝える方法を学び、スムーズなやりとりができるようになった。(6年目：保育教諭)
- 劇遊びや、絵の具遊び等、年長児らしい活動ができるよう心掛け、そこから子どもたちの表現力・想像力が育まれたと感じた。今後も子どもたちの成長に合わせた経験を、タイミングよく行えるように努めたい。(6年目：保育教諭)
- 友達とのかかわりにおいて、自分の思いや意見を相手に伝えようとする姿勢を見られた。しかしその中で手が出てしまう子もいたので、その前に状況をしっかりと捉え、子どもたちの心の動きを見ることが大事だと感じた。(2年目：保育教諭)
- コロナ禍ということもあったが、その中だからこそ、保護者との連携や連絡を自分なりに密にする必要があったと感じた。子どもたちが楽しく過ごし、学べる環境作りはもちろんの事、保護者が安心して送り出せるような保育や環境作り、を来年度は頑張っていきたいと思った。(1年目：保育教諭)
- 友達とのかかわりの中で、満3歳児クラスという事もあるのか、一人遊びや兄弟の子と遊ぶ姿が多かったように思う。しかし少しずつ楽しい遊びや、友達の行っている事に興味・関心がもてるように育った頃から、仲間意識がとも芽生えた瞬間が見えた。保育の計画はもちろんの事、「子どもたちのその時の気持ち」「声」「育っている事」にしっかりと目を向け、興味・関心がもてるような保育をすすめていきたいと思った。(1年目：保育教諭)

## 【保育部】

- 生活面では身の回りのことに、意欲がもてるような働きかけや、出来た時には共に喜び、一人ひとりの意欲に繋がりたいと、担任同士でも一緒に取り組んできた。個々の成長に合わせての対応の難しさを感じた。保護者の方との連携も欠かさず、送迎の際のちょっとした時間の会話を大切にできたつもりでいた。しかし、コロナ禍の影響もあり、そのような時間が後半もてなかったことが多かった。連絡ノートでその分、自分自身が補っていたのかと少し反省が残る。（2年目：保育教諭）
- 話しかけたり、抱っこしたりするなど、情緒の安定を図りながら保育をすすめる事ができたと思う。初めて0歳児を担当し、分からないことから始まったが、先輩保育士からの指導を受けながら、一緒に過ごす中で理解できる事が増えていった。子どもの様子をよく見て、気持ちを受け止める事の大切さを、改めて0歳児を担当して感じる事が出来た。（2年目：保育教諭）
- 4月初めから4名の0歳児の入園があり、一人ひとりの生活リズムを把握する事や、信頼関係を築くのに少し時間がかかり反省している。途中入園児2名は一人ひとりに応じて慣らし保育も行い、保護者と連携を図りながら園生活や保育士に慣れる事ができた。月齢差がある事も配慮しながら、子どもの発達に応じた遊びの工夫を職員間で話し合い、すすめていく事が足りなく反省があった。（16年目：保育教諭）
- 日々の保育の時間配分など、一人ひとりの月齢や生活の場である事をしっかりと頭に入れ、すすめる必要があった。楽しい活動を盛り多きものにするのではなく、月齢や心に寄り添う事に、もう少し視点をあてると良かった。（14年目：保育教諭）
- どの月齢の子どもも、体を十分に使ったの遊びや環境を来年度は更に工夫していきたい。（2年目：保育教諭）
- 2号認定児担当保育教諭として、午前中の子どもたちの遊びの状況をよく見極め、継続したり、重ならないようにしたりということに意識してすすめていった。個性が強い部分も多くあったので、個々を大切にする事を意識しながら保育の計画や状況に応じるように心がけた。（13年目：保育教諭）

## 【今後取り組みたい課題】

- 一人ひとりの子どもたちに合わせた支援方法や、保育の方法を学び、積極的に取り入れていきたい。また、他の専門機関の方とも連携を図り、子どもたちの発達に対するアドバイスや支援方法を学びたい。遊びに関しては、マンネリ化しないように工夫し、様々な子どもたちにとって必要な環境を考え整えていきたい。（16年目：保育教諭）
- 食に対する苦手意識を持つ子が年々増えているように感じる。遊びの時間やクラスの活動の中で、何気ない場面でも野菜や旬の食材に興味を持ち、身近に感じられるような工夫をしたいと思う。（6年目：保育教諭）
- 保護者の思いを受け止めながら、「子ども・保護者・こども園」が一体となり、一人ひとりの子どもたちの成長へと繋がられるような援助を行っていきたい。（6年目：保育教諭）
- 保護者との連携の方法を自分自身の課題としたい。連絡帳はもちろんの事、電話・メモなどを通して、細やかに伝えられるような工夫を行い、子どもたちの保育を通して信頼関係を築く事を行っていきたい。（1年目：保育教諭）
- 子どもたちがやってみようという主体的な気持ちで活動に取り組めるような、雰囲気作りや言葉がけを意識した保育をすすめていきたい。また、その場に応じた適切な対応ができるよう、予め予想される動きなどをしっかりと考えて行動していくことができるようになりたい。（1年目：保育教諭）
- 各クラスの状況・個々に合った保育や援助方法を、保育部として全員がわかっている、誰でもいつでも対応ができるような体制作りを行っていきたい。（2年目：保育教諭）
- 職員間の連絡を密にすることも、頑張っていきたい。仕事の指示を待つのではなく、必要と思う事をそれぞれが声を出してすすめていけるような体制を更に強化していきたい。（16年目：保育教諭）
- 保育部は雰囲気的にもゆっくりに部分があり、何事も進むペースが遅いことがあるので、計画性と見通しをそれぞれに持ちながら、保育をすすめていきたい。（14年目：保育教諭）

## 【学校関係者からの評価】

- 日々、子どもたちに対しての育ちの遊びの環境を研究していることがよくわかりました。先生方の思いだけでなく、子どもたちの成長に合わせた工夫がされていることがわかりました。
- コロナ禍であったが、行事等とても工夫し、子どもたちの経験も損なわず行ってくださった事に、とても感謝しています。出来る範囲で工夫して、保護者も一緒に楽しむ機会があってよかったと思いました。
- 教職員の皆さんがひとつのチームとし、一丸となって保育にかかわっている姿を、自己評価や行事等を見ていて感じました。雰囲気もよく、横のつながりが上手いっている様子も伺えます。安心して子供を送り出すことができます。
- 教職員の皆さんへ「話かけやすい」「相談しやすい」雰囲気があります。コロナ禍だったので、なかなか密になることが難しい部分ではあったと思いますが、今後もこの雰囲気のまま、園と保護者共にかかわっていくことができることを望みます。
- 今年度も「新型コロナウイルス感染症」の影響で、予定がギリギリまで決まりづらい部分があったと感じました。コロナの状況で環境や内容を決める事が時間がある程度かかり、難しいことがあると思いますが、連絡等の目処を少しでも早めにいただくとよかったと思う部分がありました。
- 経験豊富な先生と、経験の浅い先生で、協力し合うクラス編成なところが安心でした。若い先生の多い園ですが、いつも明るく楽しい雰囲気なのは温かい人柄の方ばかりなのだろうと感じます。
- 月齢の差が大きい保育部の先生の反省点などが読み取れましたが、こども園が創立し3年目が終わり、保育部の体制・幼稚園との連携をより良くしていきたいと考える前向きな考え方は、こども園全体を発展させるための必要不可欠な部分だと思います。保育部の先生方の活躍も光る、素晴らしい一年になりますようお願いしています。